

③1 Park-PFIを活用した公園整備（木伏緑地）

授賞機関 盛岡市

キーワード Park-PFI、かわまちづくり事業、街のハブ

全建賞審査委員会の評価ポイント

公募設置管理制度（Park-PFI）を活用して民間活力を取り入れ、低コストで公園のリノベーションを行った事業。利用者数や滞在時間の増加、新規事業者の参入の場の創出、維持管理コストの低減など、「街のハブ」として大きな成果を上げている点が評価された。

1. はじめに

盛岡市は、岩手県の県庁所在地であり、北東北の交通結節点の機能を有す人口約29万人の中核市である。本市では、市内475ヵ所の都市公園を、市民の憩いの場所としての機能を保ちながら、利用者の利便性向上や利用率増加につなげる、新たな活用方法を検討してきたが、都市公園法や盛岡市都市公園条例の制限等があり、収益施設等の設置には高いハードルがあった。

2. 事業の概要

盛岡駅東口の北上川沿いに位置している木伏緑地は、普段は市民の憩いの場として、また年数回の地元商店街主催のイベント等に活用されてきたが、日常の利用者が少なく、好立地の割に賑わいが不足していること、駅東口周辺や当該緑地に公衆用トイレが無いことが課題であった。



木伏緑地店舗群の様子

平成29年の都市公園法改正で新たに創設された公募設置管理制度（Park-PFI）により、都市公園活用の幅は広がり、民間のアイデアを実現できる可能性が広がった。本市でも同制度を活用し、平成30年6月に、公園利用者等の利便性向上に繋がるカフェ等飲食店の民間収益施設と公衆トイレを整備することを目的として公募を行った。同年8月には事業者選定を行い、令和元年9月

にオープンした。本市におけるPark-PFIにより整備した公園の第1号である。

3. 事業の成果

本事業は、本市の抱える課題の解決に資することを目的としており、今回の整備によって、民間収益施設からの利益還元により適切に維持管理されることで、市の財政負担軽減が図られると共に、市民ニーズを満たすサービスの提供が可能となった。

また、整備後の利用者は前年比2.5倍となったほか、店舗での飲食だけでなく、デッキや芝生広場での滞在時間が長くなり、利用者アンケートでは、8割が満足と回答している。さらに、木伏緑地に隣接する北上川では、国土交通省と本市で盛岡地区かわまちづくり事業に取り組んでいることから、地元団体や民間事業者と連携し、木伏緑地との一体的な河川空間の利活用を図ることで、盛岡の新たな魅力づくりにつなげている。



木造船「もりおか丸」



北上川ゴムポート下り



キャンプ



アウトドアレストラン

河川と緑地の利活用例

4. おわりに

木伏緑地の周辺は、それぞれ魅力のあるエリアだが、川等で分断され、エリア同士のつながりが弱かった。本事業により木伏緑地が「街のハブ」となることで、分断されていたエリアに新たな人の流れが起き、さらなる周辺への相乗効果が生まれることを期待している。